

報告事項ウ

手話に関する学習状況調査結果について

手話に関する学習状況調査結果について、別紙のとおり報告します。

平成27年5月14日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

手話に関する学習状況調査結果について

特別支援教育課

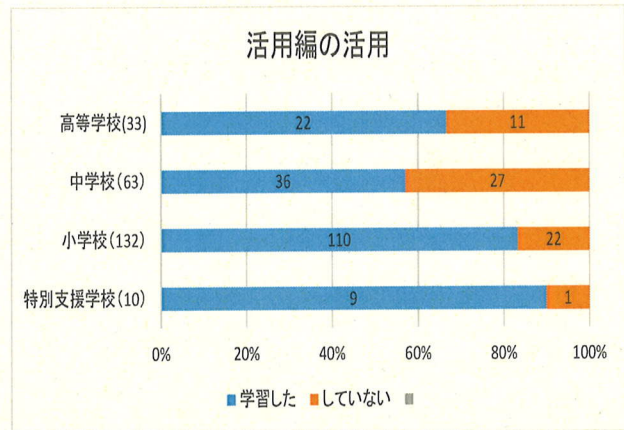
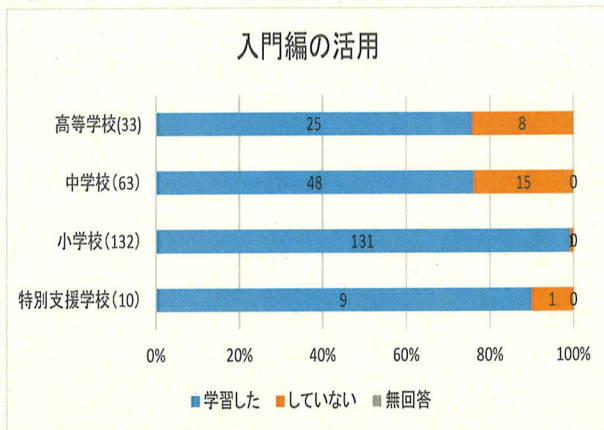
1 手話教材等の作成

- 平成26年2月 手話ハンドブック（入門編）作成・配付
- 平成26年7月 手話ハンドブック（活用編）作成・配付
- 平成26年9月 手話ハンドブックDVD作成・配付
- 平成27年2月 手話クリアファイル（鳥取県の地名）作成・配付

2 手話に関する学習状況調査（平成27年2月実施）

対象学校数 238校  
 〈内訳〉 小学校－132校 中学校－63校 高等学校－33校 特別支援学校10校  
 ※鳥取大学附属小・中・特別支援学校、米子工業高等専門学校を含む。

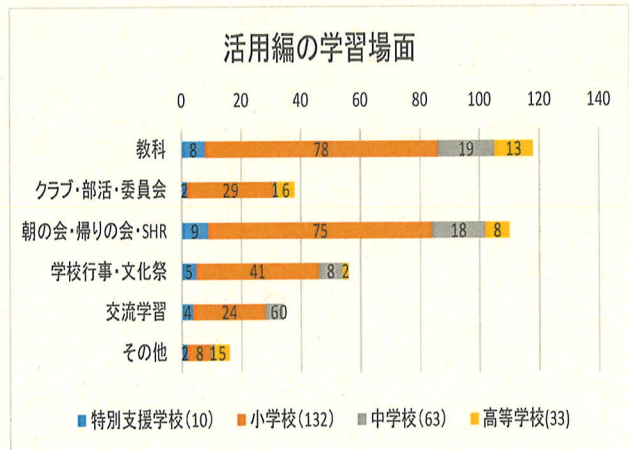
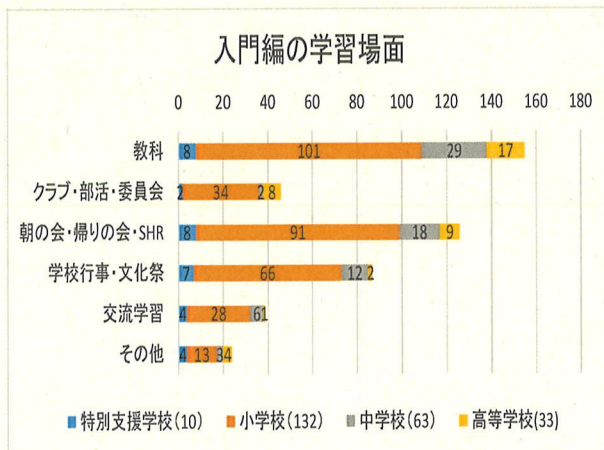
【手話ハンドブックの活用状況】



〈概要〉

- ・入門編を学習した学校一約90%、活用編を学習した学校一約75%
- ・内容については、「あいさつなど基本的な内容でわかりやすい。」「写真が多くあり、手の動きがわかりやすい。」といった意見が多くあった。
- ・「子どもたちは写真のモデルの動きを見たままに表現するので、モデルは見る側と同じ向きに動いてもらうともっとわかりやすかった。」という意見も挙げられた。

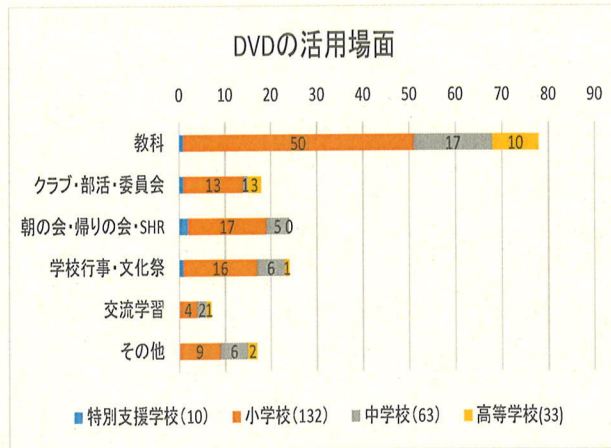
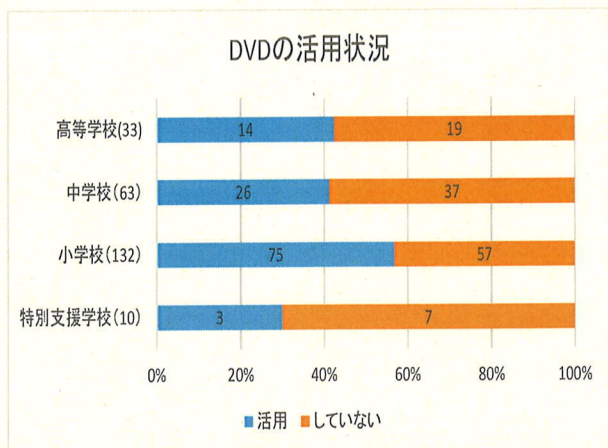
【手話ハンドブックの活用場面】



〈概要〉

- ・朝の会・帰りの会などの短時間でも継続して学習する学校が多くあった反面、「学習時間の確保が難しい。」「日々多忙で十分な教材研究の時間が確保できなかった。」といった意見も多く挙げられた。

【手話ハンドブックDVDの活用状況】



〈概要〉

- ・DVDを活用した学校—約50%
- ・「DVDがあることで、手話ハンドブックを活用しやすくなった。」という意見が多くあった。
- ・内容について、「わかりやすい。」という意見が多くあったが、「手話普及支援員を活用し、直接指導してもらうことが効果的であったため使用しなかった。」といった意見も挙げられた。

【平成27年度手話普及支援員活用希望状況】

派遣希望学校数

111校 (63校)

※ ( ) 内は平成26年度の実績数

内訳)	小学校	79校
	中学校	14校
	高等学校	15校
	特別支援学校	3校

派遣希望回数 (延べ数)

344回 (136回)

内訳)	小学校	247回
	中学校	30回
	高等学校	59回
	特別支援学校	8回

派遣希望人数 (延べ数)

520人 (231人)

内訳)	小学校	359人
	中学校	62人
	高等学校	86人
	特別支援学校	13人

〈概要〉

- ・平成27年3月末現在、91名が手話普及支援員に登録(91人中23人がろう者)
- ・昨年度6月からスタートした手話普及支援員派遣制度であるが、平成27年度はクラブ活動等での活用希望が多く、平成26年度の実績数の約2倍以上の活用希望が出されている。

3 今後の取組予定

各学校において手話で学ぶ教育環境がより充実するよう、学校窓口役(特別支援教育課や手話普及コーディネーターが発信する手話に関する情報を受信し、校内で発信する担当者)を対象とした「手話で学ぶ教育環境整備事業 説明会」を下記のとおり開催する。

地区	日時	場所
東部地区	平成27年5月29日(金) 15:00~16:45	鳥取県東部庁舎 5階講堂
中部地区	平成27年5月26日(火) 15:00~16:45	琴浦町生涯学習センター 「まなびタウンとうはく」4階研修室
西部地区	平成27年5月22日(金) 15:00~16:45	米子市福祉保健総合センター 「ふれあいの里」4階中会議室1・2